

# 希望に満ちて

## さいたま市立大門小学校

自ら学ぶ子  
だれとでも仲よくする子  
進んできたえる子  
人とのかわりを大切にする子

### 精一杯輝こう

校長 石黒 真愁子

10月になりました。10月の時候に「錦秋」という言葉があります。まさに読んで字のごとく紅葉が錦のように美しい秋と言う意味です。この「錦秋」の季節、修学旅行、校外学習、音楽会など学校では多くの行事が続きます。学校行事は、集団の質を高め、一人ひとりを鍛えるチャンスです。さらに、集団に対して子どもたち一人ひとりが価値ある存在であることを認識したときに集団は大きく向上し、発展していきます。子どもたちには、行事に参加するだけではなく、自分ができそうなことや、ちょっとがんばればできそうなことに積極的に挑戦し、行事を通してより一層成長して欲しいと願っております。

さて、先日、2年生の何人かの子どもたちが昼休みに校長室を訪問してくれました。私は、子どもたちに、「校長室はどうすればもっとよくなると思いますか。」と尋ねました。きっと、「きれいなお花を飾った方がいい」とか「椅子の場所を変えた方がいい」とかいう答えが返ってくるかと思っていました。しかし、予想は見事にはずれませんでした。子どもたちは、「校長室に置いてある鉢の枝が少し長いから、お友達の目に入らないようにもう少し短く切った方がいい。」と答えてくれました。私ははっとしました。このような相手を思いやる視点で物事を見つめる事の大切さを、子どもたちからあらためて教えられました。

10月には人権週間があります。平成28年度は、大門小学校が「人権の花運動」の対象校として活動します。「人権の花運動」は、小学校の子どもたちが花を育てることを通じて生命の尊さを実感し、相手を思いやるという人権感覚をはぐくむことを目的としたものです。どんなに美しい花の命にも限りがあります。その限りある命を精一杯輝かせ、咲き誇る花々を慈しみ、大切に育てることを通して、人を思いやり、自他の生命を尊重する心をしっかりと育てていきたいと思えます。

平成8年4月、昇降口前のロータリーに植えられた本校のシンボルツリーの一つである「シダレザクラ」も、長い時を刻み、美しい花を精一杯咲かせ、子どもたちや地域を見守ってきましたが、今年の春は花をつけることができず、その命が枯れてきているのを感じます。しかし、たとえ今年花を咲かせることができなかつたとしても、地域の方々や子どもたちの心には、春が来る度に柔らかな桃色を風になびかせて輝いていた美しい「シダレザクラ」の姿が、いつまでも焼き付いているものと思われま。

最後になりますが、先日開催されました運動会には、たくさんの方々に御来校いただき、御声援をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。一生懸命運動会の練習に励む中で、子どもたちは、心も体も一段と成長し、自分を精一杯輝かせ取り組んでいました。

今後も「一人ひとりが精一杯輝きを放ち、大門小をもっと輝やかせよう」を目指し、教職員一丸となって取り組んでまいります。引き続き、子どもたちへの御支援、よろしくお願いいたします。